

「システム開発方法論への科学的アプローチ研究会」研究会

2018 年度第 4 回勉強会のご案内

2018 年 12 月 11 日

情報システム学会同上研究会発

1. 日 時：2019 年 2 月 18 日（月）午後 2 時 00 分～午後 5 時
2. 場 所：株式会社プライド会議室

■場所

株式会社プライド

東京都千代田五番町 12 番地 1

番町会館 3F

TEL：03-3239-5431

FAX：03-3239-5432

■アクセス

<https://www.naska.co.jp/corporate/access>

JR 四ツ谷、JR 市ヶ谷から共に徒歩 5 分

3 階エレベータ前の株式会社インフォメーション・ディベロプメント社総合受付 左手奥「303 会議室」です。

3. 発表

データ管理は、世界初の商用システム開発方法論パッケージ PRIDE（1972 年）が早くも中核コンセプトに置いていたが、当時まだ、データ資源を認識し管理する技術は十分に確立していなかった。その後 1976 年に P. Chen が ER モデルを提唱し、同時期に我が国で椿正明と穂鷹良介が TH モデルを提唱し、システム開発への適用が始まると、データ管理を重視する考えが急速に普及した。いまやデータ管理を前提としない開発方法論など考えられない。だが、それ固有の技術特性もあり、データ管理の道は決して平坦ではなかった。国際的なデータ専門家団体 DAMA による DMBOK（Data Management Body of Knowledge：データマネジメントの知識体系）の策定は、その意味で注目される。

今回は、長年、データ管理ビジネスで活躍され、また DMBOK2 の翻訳に深く関わってこられた黒澤基博氏をゲストスピーカーにお招きし、データ管理の過去・現在・未来について忌憚無くお話頂き、データ管理の面から方法論の原点を探る議論を楽しみます。

講師：Metafind コンサルティング株式会社 プリンシパルコンサルタント、フェロー

黒澤基博氏

タイトル「データマネジメント知識体系 DMBOK2 と方法論の関わり」

データマネジメント（DM）を歴史的に見ると三世代ある。第一世代の DM は、コンピュータシステムを構築するためのテーブル定義やデータ定義などメタデータ管理が中心だった。第二世代の DM は、業務の物事や未来を可視化し、部門間で共通認識させることでコ

コミュニケーションの場をつくった。これが協働を可能とし、さまざまな業務最適化に寄与した。そして今は第三世代。オイルと同じようにデータが資源と捉えられ、差別化の源泉の1つと言われている。

先進企業では、DMはイノベーションの一部として位置付けられるようになっている。頭の良いAIを作るためには、質の良いデータが不可欠であるし、DMは購買履歴データの囲い込みなどビジネスの世界でも注目されている。このように高度で多様な能力が求められるDMに対し、良い道しるべを提供すると考えられるのがDMBOK2である。

方法論は、①何が美しいかの価値観、②作業の連鎖、③成果物の定義から成るものだが、DMBOK2のアクティビティはこの中の作業として捉えることができる。販売システムの開発、MDMシステムの開発、情報系システム(DWH)の開発、あるいはEAプランニング、データ解析やデータサイエンスを使ったデータ活用など、開発タイプが異なると、それぞれの成果物やアクティビティは異なる。つまり、方法論はこれらの数だけ種類が必要だが、DMBOK2を上手に使い、データマネジメントとの接点を漏らすことなく、それぞれの方法論を作成することができる。DMBOK2の知識をきちんと理解すれば、多様な開発案件に対し柔軟に応じられるデータマネジメントが実現可能となる。

参加費：無料

★研究会の後、懇親会を催します（費用は実費）。

研究会の参加希望の方は以下のメールアドレスにメールをください。

kitamura■naska.co.jp 北村充晴（株式会社プライド）宛て

（↑通常の宛先と異なります）

以上